

# 待降節 2020年



親愛なる姉妹の皆さま

私たちは、新しい典礼暦とともに新たな待降節を迎えます。この恵みと希望の時期は、神の現存とその強力な救い主を見い出すために目覚めている時です。

キリスト者にとって、待降節は、これまでも、そして今も、キリストの誕生を祝う準備をする素敵な恵みの時です。古くから教会は、栄光の主、世界における神の現存、そしていつか私たちの出会いに来られるお方に視線を向ける必要があると感じていました。

主イエスよ、来てください！ それは、待降節における教会の卓越した叫びです。しかし実際には、それは人類の叫びであり、生きるために必要な物を求めてやまない失業者や餓え渴く人びとの群れに始まり、病の床にいる一人ひとりの叫びです。

待降節における最初の日曜日の福音は、キリストの最後の来臨を待つ、警戒するよう私たちを招きます。「いつ家の主人が帰ってくるのか、分からないから、目を覚ましていなさい」(マルコ 13,35.37)。非常に多くの不正や不平等に警戒しなければならない時です。それはパンデミックが引き起こした結果のために最も苦しむ人びとを思いやることです。家族を養うための財源のない非常に多くの失業者に心をとめ、時のしるしを通して私たちに語りかけている聖霊に耳を傾け、必要とする人びとの中でキリストの顔を見い出すことに心がけます。

待降節は、人類の最大の願望との深い連帯があることから、人びとの具体的な希望、近き人や遠くにいる人びと、名指しで、生身の生きた希望からのみ祝うことができる私は信じています。この人間性は、神が望んでいることであり、私たちが準備しなければならないものです。人びとが何を待っているのか、彼らの本当の希望は何かを自問し、この具体的な現実、この具体的な人を主の前に置き、「主イエスよ、来てください」と祈ります。

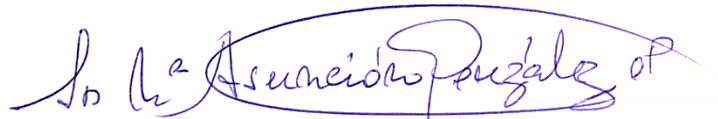
教皇フランシスコは、回勅「Fratelli Tutti」(われら皆、兄弟)において人種、社会的条件、貧困に基づく差別がなく、誰もが生きるために必要な屋根とパンを持っているという、新しい、より兄弟的な人間性を構築するよう私たちを招いて

います。私たち、皆は、神の息子であり、また娘です。神は私たちを深い愛をもって愛し、一人ひとりに命に満ちた現在と未来を望んでおられます。私たちに食べ物を提供してくれる土地を大切にし、お互いが特に最も困っている人びとの手助けをします。

私たちは、聖母がすべての人類を信じ、希望し、愛することを教えてくださることを願いつつ、私たちの母マリアのみ手に委ねて、この待降節の歩んでまいりましょう。

私は、皆さんが幸せに満ちた聖なる待降節を過ごされますようお願いしています。

姉妹的抱擁と私の祈りをそえて、



Sor M<sup>a</sup> Asunción González, O.P.  
Priora General

